



大きな成果を次のステップに

校 長 三 浦 利 信

第77回体育大会は10月4日（土）に、曇天で時折小雨が降る中、競技予定時間を繰り上げて開催しました。前日までの天気予報は、各社まちまちで、気象予報士泣かせの空模様でした。当日の時間単位での予報は、「お昼過ぎから雨が降り出すが、午前中は曇り空」、開会式では、「晴天とは言えませんが、雨が降り出す前に終わらせましょう」と声をかけて、体育大会がスタートしました。

十分な準備期間が確保できない状況でしたが、生徒達の一生懸命に取り組む姿が見られました。3年生は先頭に立って練習や準備を引っ張り、後輩に大きな背中を見せると共に、当日は勝ち負けを超えて、お互いを認め合う清々しい姿が見られました。2年生は意欲的に取り組む様子に一年間の成長した姿が見られました。1年生は初めての全校行事で戸惑うことも多かったと思いますが、生徒全員で取り組むことの素晴らしさを学んだと思います。また、多くの保護者・地域の皆様に、生徒達の一生懸命な姿をご覧いただけたと思います。

今年度の体育大会のスローガンは「革故鼎新 ～伝統に挑む、新時代の鼓動～」でした。革故鼎新（かくこていしん）には、古い習慣や制度などを新しいものに改正するという意味があるそうです。2年前がインフルエンザで当時1年生が学年閉鎖、昨年が雨天中止と、全校揃っての体育大会を経験した生徒がいない状況での今年の体育大会は、「伝統を継ぐ」だけでなく、「伝統を作る」体育大会になったと思います。

実りの秋のとおり、大きな成果があった体育大会でしたが、この成果を3年生は自らの進路選択に、2年生は委員会や部活動などの中心として、1年生は学級や学年の取り組みへと、次のステップに活かして欲しいと思います。

一人一人が自分自身をしっかりと見つめ、目標を定めて努力を続ける。「千里の道も一歩から」と言いますが、千里（4000km）に比べれば人の一歩は比べものにならない位短いものです。しかし、その一歩を踏み出さない限り、決して目指すゴールにはたどり着けないのです。未来に向けた一歩を踏み出して欲しいと思います。

部活動地域展開（TEAM はむら）の活躍について

羽村市教育委員会は、学校の部活動を地域の活動「TEAM はむら」へと段階的に展開させています。現在、「TEAM はむら」として3つの団体が活躍しています。

劇団 Comet（旧演劇部）は、7月に開催された「第10回 HAMURA メリーリボン演劇祭」でオープニングを飾りました。東京ミッドウエスト吹奏楽団ジュニア部（旧吹奏楽部）は、東京都吹奏楽コンクールに進出し金賞を受賞しました。volare 北多摩（旧男子バレーボール部）は、全日本中学校バレーボール選手権大会に出場しました。

8月からは、ソフトテニス「TEAM はむら」としての活動を始めています。羽村市教育委員会の方針として、令和8年度中に、中学校単独での部活動は活動を閉じ、3中学校合同での部活動や「TEAM はむら」での活動へと進んでいくことになります。

一中あるばむ

学習や行事、部活動等に一生懸命に取り組む一中生の素敵な様子を紹介します。

第2学年一元の校舎への移動—

エアコン修理のため第一校舎に間借りしていた2年生が、久しぶりに第二校舎の教室へ戻りました。懐かしい教室での給食に、笑顔があふれるひとときとなりました。



樹齢約120年の一中のシンボルツリーマロニエ。今年の猛暑で枯れてしまった部分を伐採していただきました。

生徒会選挙 ～9月26日（金）～

1年間学校を支えてくれた旧生徒会に代わり、新しい仲間を選ぶ生徒会選挙が行われました。「学校をより良くしたい」という思いを胸に、立候補者も投票する生徒も真剣な表情で臨みました。



体育大会の取組

9月21日に約30名の保護者のボランティア方が集まり、校庭の草取りをしてくださいました。翌日には、保護者に続き140名ほどの生徒たちが同様に校庭の草取りのボランティアに進んで参加してくれました。気持ちよく体育大会を迎えようとする取組に羽村一中の団結を感じました。



草取り清掃後の大量のごみの山



体育大会当日の10月4日（土）は小雨の降る中での開催でしたが、係生徒のきびきびとした働きと全校生徒の協力で、全ての競技を予定通り実施することができました。仲間を応援する声とたくさんの笑顔が校庭に広がり、誇らしい一中生の姿が光る、心に残る体育大会となりました。実施にあたり、毎朝ライン引きから動きの確認、ラジオ体操の練習まで、主体的に動いてくれた素晴らしい実行委員のみなさん、本当にお疲れさまでした。



令和 7 年 1 0 月 9 日

保護者・地域の皆様

羽村市立羽村第一中学校

校長 三 浦 利 信

羽村一中シンボルツリー（マロニエの木）の状況について

日ごろより本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき感謝します。

羽村一中の校庭にある「マロニエ」の木（栃の木）ですが、老木化が進み、危険な状況になっています。近年、台風や強風の時に、比較的大きな枝が落下することが続き、生徒の安全上の課題となっていました。

令和 5 年度の 9 月に改善のための剪定作業をし、令和 6 年度には葉が戻り回復傾向にありました。今年度に入り、高温や少雨の影響もあり、葉が育たない状況が続いていました。加えて、枝の落下が目立つようになり、状況を確認したところ、枝の空洞化や樹皮が剥がれていることが分かりました。

9 月末には危険箇所の剪定を行いましたが、今後の対応については、専門家等の意見を踏まえて対応することになるかと思いますが、植え替えも考えられる状況です。長年、羽村一中のシンボルツリーとして、在校生はもとより、卒業生や地域の皆様にも親しまれてきたマロニエの木ですので、現在の状況について報告します。

左：令和 5 年度 剪定前の様子、木が大きくなり、枝の落下が目立つようになる

中：令和 6 年度 剪定の翌年、葉が戻り、元気な様子が確認できていた

右：令和 7 年度 葉がほとんど見られず、落下する枝が多く危険な状況になった

